

第7回 (2021年度) 日本セラミックス協会フェロー表彰

2010年の公益社団法人への移行後、本会は中期経営計画を策定し、その中で「表彰制度の在り方の見直し」を掲げ、表彰制度検討委員会を設置して検討を進めて参りました。その結果、協会創立125周年である2015年から、新たに「日本セラミックス協会フェロー表彰」制度を導入しております。

本フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー（英語名称：CerSJ Fellow）の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー表彰候補者選考委員会にて慎重な審議を行い、受賞候補者として次の6名の方が理事会に推薦され、2021年11月25日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介いたします。

受賞者一覧

(6名 氏名五十音順、所属は受賞時点のもの)

幾原 裕美	(一財)ファインセラミックスセンター
岩本 雄二	名古屋工業大学
川崎 真司	日本ガイシ(株)
木口 賢紀	熊本大学
清水 陽一	九州工業大学
中西 和樹	名古屋大学、京都大学

2021年度フェロー候補者選考委員会

委員長：岡田 清，委員：平尾一之，山下仁大，篠崎和夫，陶山容子，後藤 孝
※本年4月号後付に2022年度フェロー候補者推薦募集要項を掲載しております。

Recipients of The 7th CerSJ Fellow Awards



いくばら ゆみ
幾原 裕美氏

幾原裕美氏は、化学溶液法をはじめとした種々のセラミックスプロセスにより、ナノ構造を制御したりリチウムイオン電池材料、金属ナノ粒子分散ガス分離膜材料、高配向酸化超電導材料など新規なエネルギー関連材料を創製するとともに、そのナノ構造と機能特性との相関性を明らかにしてきた。これら一連の成果は、セラミックスプロセス分野の発展に大きく貢献した。また、本協会においては、協会誌編集委員、PACRIMセッションオーガナイザーなどを務めた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1987年 岐阜薬科大学卒業、(財)ファインセラミックスセンター (JFCC) 入所、1994年 ケースウェスタンリザーブ大学大学院材料科学専攻修了、2004年 京都大学博士(工学)、2007年 JFCC主任研究員、2013年 大同大学客員教授。



いのもと ゆうじ
岩本 雄二氏

岩本雄二氏は、有機金属前駆体の分子構造制御に基づくセラミックスの極微細多孔質構造制御および分子サイズレベルでの局所構造制御技術を構築し、高水素選択透過膜や水素親和性材料等の水素エネルギー技術の構築に資する新規機能材料を創製し、2006年度日本セラミックス協会学術賞を受賞している。同氏はまた、標準化委員会委員長、理事、運営委員、学術論文誌の編集委員や同論文誌特集号のゲストエディターなどを務め、日本セラ

ミックス協会の活動に貢献している。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1987年3月名古屋市立大学大学院薬学研究科博士前期課程修了、同年4月日本農業(株)入社、1990年1月(財)ファインセラミックスセンターへ転籍後、2007年5月名古屋工業大学教授/2017年副学長。



かわさき しんじ
川崎 真司氏

川崎真司氏は、長年、セラミックスの材料開発およびプロセス開発に取り組み、セラミックス製品の実用化に貢献した。微構造制御により高強度と高气孔率を両立した多孔質セラミックスは、DPF (Diesel Particulate Filter) 等の自動車排ガス浄化用ハニカムセラミックスに使われており、2019年日本セラミックス大賞を受賞した。また、多くの国家プロジェクト推進に関わりセラミックス研究の発展、および、本協会の東海支部長、理事等を務め、

協会活動に貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1984年東京工業大学大学院総合理工学研究科材料科学専攻修士課程修了、同年日本ガイシ株式会社入社、2007年同社基盤技術研究所長、2020年同社理事 研究開発本部、現在に至る。



きぐち たかのり
木口 賢紀氏

木口賢紀氏は、強誘電体薄膜材料を中心に育成結晶の界面現象に着目し、材料ナノ組織の先端電子顕微鏡解析手法の構築、多様な界面で起こる組織・構造の生成・変化、その結果として生じる歪み場を可視化し定量化することに成功し、これを基盤にした新たな材料創生の道を開拓した。さらに、セラミックスに関するこれらの成果を半導体や軽金属の学術分野に発展させた。また、協会本部、関東支部、電子材料部会などの委員会活動に積極

的に取り組み、協会の活動に貢献してきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1997年12月 東京工業大学大学院理工学研究科無機材料工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)、1998年1月 同大工学部助手、2007年12月 東北大学金属材料研究所准教授、2021年12月 熊本大学教授。



しみず よういち
清水 陽一氏

清水陽一氏は、環境計測ならびに電極触媒用高機能セラミックスの開発を目指して研究を進め、複合酸化物の微粉体・薄膜・厚膜や、硫化物、窒化物等の合成が困難な物質の新たな作製法を考案し、化学センサや燃料電池へ応用してきた。これらの研究成果は、環境・エネルギー問題に繋がるセラミックス材料化学の発展に貢献している。また、本協会の理事、基礎科学部会長、九州支部長等を務め、協会の活動にも貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1983年九州大学工学部応用化学科卒業、1985年九州大学大学院修士修了、1986年九州大学助手、1994年九州工業大学助教授、1996年マクマスター大学客員助教授(併)、2004年九州工業大学教授、2009-2018年理数教育支援センター長(併)。



なかにし かずき
中西 和樹 氏

中西和樹氏は、ゾルーゲル法による材料合成において、重合に誘起される相分離を利用した階層的多孔材料の構造制御法を開拓し、幅広い酸化物・リン酸塩セラミックス組成に展開するとともに、新規液体クロマトグラフィー分離媒体として商品化を行った。これらの業績に対して2006年にセラミックス協会学術賞を受賞した。また有機無機ハイブリッドエアロゲルによる透明断熱材等、同氏の技術に基づく国内のべ7社のベンチャー起業支

援を行い、社会実装に尽力している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1985年京都大学大学院工学研究科修士課程修了、1986年京都大学工学部助手、1995年同助教授、2005年京都大学大学院理学研究科准教授、2019年名古屋大学未来材料・システム研究所教授、現在に至る。